

令和7年度 学校経営計画・自己評価書

足立区立東栗原小学校

校長 田中 岳晴

1 学校教育目標

学ぶよろこび ・ きたえるよろこび ・ ふれ合うよろこび をもつ子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・安全で笑顔あふれる学校 ・子供も教職員も生き生きと輝いている学校 ・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・基礎的・基本的な学力・体力を身に付け、工夫しながら楽しむ子ども ・目標をもち、最後までやり遂げる子ども ・互いの違いや人権を尊重し、協働して、社会に貢献する子ども
○教師像	・子供の人権を守り、子供とともに汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ・子供のよさを認め、励まし、高める教師 ・指導力の向上を目指し、主体的・意欲的に研修に励む教師 ・課題意識をもち、組織的に課題に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

○学級数12学級、児童数317名、創立56周年を迎える。学区域は、環七北側に位置し、2つの町、3つの町会が存在する。保護者・地域の方々は、学校教育に理解があり、協力的である。

児童は、明るく素直で、子供らしい児童が多い。学習中は、落ち着いて学習に取り組む児童が多い。教職員は、若手教員が多く、一つ一つの授業や行事に、熱心に指導に取り組んでいる。足立スタンダード虎の巻を軸にした授業を展開し、思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、取り組んでいる

[前年度の成果と課題]

○チャイムに頼らず、時計を見て主体的に行動するようになった。

○体験を通して社会生活に生きる知識や知恵を身に付けるよう、学校行事を充実していく。

●ICTの活用：授業中の対話の中で、考えを出し合ったり比べ合ったりする場面の活用に努める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	○
2	豊かな人間性の育成（豊かな心）	◎	◎	◎	◎	◎
3	基礎体力の向上と健康な体づくり（健やかな体）	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的な内容の定着、課題解決を 分かりやすく考えさせる授業の工 夫・改善を行う。		区学力調査目標値通過率 2科目通過率 75%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実 授業力向上	全学年 全教科	通年	・「足立スタンダード虎の巻」の活用 ・校内研究、小中連携での研究授業の実施、区内外の研究発表への参加 ・日常の授業観察と指導・助言（管理職・教科指導専門員） ・SP表に基づく授業改善 ・週の指導計画の充実 主活動2つ以上明記	日常の授業観察 授業公開 教員の自己評価 単元テスト	教員の自己評価 95%以上実施 児童の意識調査から「授業が分かる・楽しい」 目標値を 80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	自己評価の際に記入		
3	A I ド リルの活用	全児童 国語 算数 基礎技能 中心	通年	・パワーアップタイム：個別に学内容の定着を図る必要がある内容について取り組む。	教員の自己評価 単元テスト	目標値を 80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数			
4	ICT の活用	全学年 全教科 思考力 向上	通年	・担任・専科 ・児童がより分かるために ICT を活用した授業を行う。	週の予定表 評価アンケート	全教員が週 3 回以上 ICT を活用した授業を行う。			

5	パワーアップ タ イ ム	全 児 童 算 国 語 数	週 4 回 始 業 前 5 分 ～ 1 0 分 間	・東京ベーシックドリル・AI ドリルMIMなどを使い、学習内 容の復習・確認を行い、定着を 図る	教員の自己評価 単元テスト	目標値を80%と して通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	自己評価の際に記入
6	話す力の育成	全 学 年 全 教 科	通 年	他者との関わりから考えを深 める授業づくり 他者に伝える機会の充実	評価アンケート	肯定的な回答が 80%以上	
7	読む力の育成	各 教 科 そ の 他	通 年	各教科や家庭学習等において 音読の日常化、詩の暗唱に取り 組む	評価アンケート	肯定的な回答が 80%以上	
8	夏 期 補 充	対象児童 各学年 10 名程度 国語算数	夏休み期 間中の 10 日 各日 60 分	・担任、専科、学習サポーター ・学力調査で分析した、学習内 容の補充をプリント・タブレッ ト、リモート等を活用して理解 を図る。	夏前の振り返り テスト	夏前の振り返りテ スト 実施前の 2 0 ポイントプラス	

重点的な取組事項－ 2		豊かな人間性の育成（豊かな心）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感を高める 思いやりのある心を育む		学校は楽しい 95% 自分を肯定的に捉えられる 90%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ・差別の防止	・いじめ・差別に関する教員研修と防止授業を 4 回以上 ・児童会主体のいじめ・差別撲滅キャンペーンを年 2 回実施	・道徳授業地区公開講座で、いじめ防止授業を全学級で公開 ・健全育成の年間計画に沿った取組の実施	自己評価の際に記入		

社会への参画する力を育む	・学級活動(1)の話し合い活動を年間15回以上実施 ・全員が学級会の運営に1回以上関わる	・学級活動(1)の実施 ・土曜授業で学級活動の話し合い活動を全学級で公開 ・全員が司会や記録等を経験する	自己評価の際に記入		
自己の実現に関する力を育む	・学期や学校行事等のめあてや振り返り指導を年4回以上 ・学校評価(児童)「自分のことを大切に思う」の肯定的回答が90%以上	・夢デザインシートの活用 ・学級活動の時間に、係活動のめあてづくりや振り返り指導を実施する			
不登校傾向児童への支援	・校内委員会の実施回数 ・(3年生以上)QU検査を2回実施	・校内委員会で、情報共有、関係諸機関との連携など、素早く組織的に対応する ・QU検査の結果を学級経営に活かす			

重点的な取組事項－３		基礎体力の向上と健康な体づくり（健やかな体）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで体を動かす児童の育成と基礎体力の向上		目標実現に向けた取組の実施結果が、 2項目以上が達成基準以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

基礎体力の向上	・課題種目の平均値が、年度初めよりも再調査の結果が向上 ・体育実技研修を、年3回以上行う	・6月の調査から課題種目を決め、体育の時間に課題克服のための指導を行う ・効果検証として、再調査を12月までに実施 ・体育実技研修を実施し、指導のポイントを全教員が共有する	自己評価の際に記入
運動の日常化	・学校評価項目（児童）「体を動かすことは楽しい」「休み時間に校庭で週に3回以上遊ぶ」の回答が80%以上	・中休みに全児童が取り組むオリンピックタイム・なわとび、持久走など	
食育の充実	・学校評価項目（児童）「ひと口目は野菜から食べる」の肯定的回答が85%以上 ・学校評価項目（保護者）「ひと口目は野菜から意識して食べる」の肯定的回答が60%以上	・全学級で「ひと口目は野菜から、よくかんで食べましょう」の号令を実施 ・栄養士と担任が連携した学級指導の実施 ・学校だより、給食だよりでベジファーストの必要性を発信する	

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

（２）保護者や地域へのメッセージ

（３）その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入